

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400853		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKI ほおずき姫路香寺		
所在地	兵庫県姫路市香寺町中仁野268番1		
自己評価作成日	平成25年 10月9日	評価結果市町村受理日	平成26年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2番14号703号
訪問調査日	平成25年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・建物内外の色々な所に花を置いて、皆で世話をしている。 ・国道や駅に近いので 店等の施設が多いが、一歩奥に入ると公園やのどかな田園地帯もある。このような便利な環境を活かし、利用者様が望まれる時に いろいろな所へ行けるように努めている。 ・地域に根ざしたグループホームの取り組みで、ふれあい喫茶、地域行事に積極的に参加し、地域の方々と交流、情報交換をしている。また知り合いの方と出会えるきっかけ作りと会話の機会をつくる事で、地域での生活が成り立つようにしている。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>①「人間の尊厳」を基軸にした運営・「出会いを大切にし 互いを思いやり支え合う 笑顔あふれるホームづくり」を事業所テーマとし、介護者側の価値観を押し付けず、人生の大先輩である入居者への尊敬の心を大切に、相互援助(連携・連帯・協働)しながらの共同生活が実践されるよう取り組んでいる。②学習する「組織」・職員全員が協働の参画意識を持ち、個々の能力や発想を持ちよる事が自然に展開出来ており、広がり伸びていく組織として活気が伺える。③安らぎ(穏やかな生活)を感じる環境設計・季節を感じることでできる玄関口の草花や玄関ホールの飾り付け、広く穏やかな採光が降り注ぐリビング、同居している「犬」の癒しの効果等、日々の生活がゆったり、穏やかにすすんでいける環境設計に配慮している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼時に唱和している。 ・会議の場では、各課題の要点については、理念にも照らして考えている。 	法人理念を軸に、「出会いを大切にし 互いを思いやり支え合う 笑顔あふれるホームづくり」を事業所テーマとしている。入居者との関係性と職員間の相互援助(連携・連帯)の基、事業運営している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・近所で買い物をしたり、率先した挨拶をすることを心がけている。 ・近くの公園に散歩に出かけている。 ・ふれあい喫茶や祭りの時、声をかけて頂き出かけて楽しんでいる。 	日常での散歩や買い物時での挨拶、自治会清掃、触れ合い喫茶への参加、「ムーミン祭り」での近隣や子どもたちとの交流、毎月のボランティアの協力等、地域との交流は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議において、現場でどのような事があったか報告、説明している。また、意見交換の際にアドバイスを受けたり、提案している。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の意見交換の際に、具体的な事例を取り上げ、そこで出た意見を現場で活用している。(散歩の事、避難訓練の事、事業所の動き情報発送の件等) 	入居者も毎回異なる方々が参加し、地域代表も複数名出席している。会議では多くの意見・要望等を検討し、取り組めることから実践している(地域との交流、事業所通信の発信、季節ごとの健康留意ポイント等)。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム連絡会に参加し、市役所の方から情報を得たり、意見を述べる場を得ている。 	グループホーム連絡会(年3回:市職員参加)に出席し、市職員や同業者との意見交換や情報共有を図っている。消防署の方にはアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間に施錠時間(20時~7時頃)があるがそれ以外は各所のドアを開け、自由に行き来できるようにしている。 ・危険がない限り、入居者の行きたいところへ行ってもらう 原則を意識して実行している。 ・言葉による拘束や制止が無いように徹底している。 	身体拘束等の弊害を職員全員が理解し、入居者の思い・行動を制限するような対応は禁止としている。夜間の施錠以外は鍵をかけないケアを実践し、スピーチロックの根絶等「人間の尊厳」に注力したケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画に挙げて、虐待防止の勉強会を行うようにしている。 ・入居者の表情や様子の観察を日頃から行い、入浴時に体の状態を見たり等、心身の状態変化に注意している。 	高齢者虐待へと繋がる「不適切なケア」の部分からの検証をおこなっている。職員のメンタルヘルスに留意し、「間を取る」「コミュニケーションを大切に」を基本に閉塞感のない事業所を設計している。	今後も、安全性に配慮した抑圧感のない自由な暮らしの支援の継続を願います。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・新人研修にて受講している。 ・成年後見人制度が、必要と思われる方や相談のあった方等にパンフレットと仕組みなどの話をさせていただいている。 	法人本部主導の権利擁護に関する基本研修を実施している。現在活用者がおられ、認知症高齢者への支援の一方策であることを職員も十分理解している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問や来所頂いて、じっくりと話しを伺っている。 ・書類の説明も念入りに行き、不安・疑問についても理解頂ける様に、時間をかけ説明している。 	契約前に、見学・「本人」との面談・質疑応答等により不安感、疑問点がないような状態にして、契約を締結している。重度化・終末期への対応方針についても説明し理解いただいている。	今後、日常的に家族等からの質問が多い内容を職員から収集し、家族向けの「Q&A」の作成もされては如何でしょう。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に、入居者も家族も自由に発言できる機会を設けている。 ・そこの発言を改善に生かしている。 ・事業所に「ご意見箱」を設置している。 ・ホームページから苦情・要望の受付ができる。 	運営推進会議、行事開催時・訪問時、意見箱・ホームページでの要望受付等様々なチャネルで意見等を聴き取る機会を設けている。家族とともに行う行事や事業所情報の発信機会を増やす等は実践している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・各ミーティングに管理者が同席し、意見を交わし、実施に向けて取り組んでいる。 ・マイチャレンジ面談にて、個別で話しができる。 ・提案あれば、管理者にいつでも報告できる。 	月例での会議、管理者との個人面談(マイチャレンジ)、職員へのアンケート等意見等が出しやすい環境を整えており、全員で創る事業所となっている。	管理者のリーダーシップのもと、非常にチームワークの取れた協働が実践されている。今後も、この職場環境を大切にして頂くことに大いに期待をします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・マイチャレンジ(個人目標)を個人と代表者の間で共有している。 ・整備された人事考課のシステムに基づいて、判断処遇されている。 ・福利厚生として、甲子園の年間シートに招待されたり、事業所毎の慰労会が催される。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回全体研修が行われている。 ・新人研修等、職位ごとの研修が年間に複数回行われ、参加している。 ・個別、目的別の研修会に月1回ほどのペースで参加している。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム連絡会に参加し交流している。 ・他施設に実習に出たり、受け入れをしている。 ・法人内他事業所との事例検討会に参加している。 ・実習の方を受け入れている。 		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・導入段階では、本人の気持ちや要望をじっくり伺う事で、信頼関係を築けるようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・契約の時から、家族としての思いや要望等を面談等にて伺い、関係づくりをしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族からの伺える限りの情報に基づき、公平・公正に、必要な社会資源に繋がられるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・楽しみも目標も、本人と職員と一緒に味わい、取り組むようにしている。 ・日常生活の各場面で本人と職員は相互に助け合っている。 ・一緒に買い物や家事等を行っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人も家族も職員も同じ目標を持つ、チームの一員としての働きかけをしている。 ・面会時に家族に、衣替えの準備と一緒に出かける事などを依頼する事がある。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前に通われていた書道教室に、入居後も継続して、送迎等の支援を行い、通い続けてもらっている。 ・近所の店や医院に行かれての会話等を大切にしている。 ・友人に来てもらいやすい雰囲気づくりに努めている。	家族との外出(食事やドライブ等)、入居前からの習い事(書道)への外出支援、友人・知人が訪問しやすい環境等今までの生活が継続できるように支援出来している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・楽しみごと家事等も複数あるいはユニットの全員の入居者で行えるようにしている。 ・関係の把握に努め、時に盛り上げ、時にクッションになり、時に退いて入居者が自主的に円滑に支えあえるようにしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退居後も、入院であればお見舞いに行っている。 ・退居後も、本人と家族と一緒に来所されている。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・各入居者の好まれる事や得意な事、必要な事や好まれるペース等を、日ごろから伺ったり、把握できるようにしている。 ・日常会話において希望を伺ったり、汲み取ったりしている。 	事業所テーマのキーワード『互いに思いやり支え合う』に基づき入居者個々人の日常から、ご本人の思いや意向を汲み取り、望む日常となるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族に伺っている。 ・入居者全員のフェイスシートやアセスメントシートにどの職員も目を通すようにし、かつ日常会話から伺っている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のその日の状態に応じた、望まれる生活ができるように努めている。 ・行事や日常の家事でも、時々いつもと違うことしてもらい力の把握に努めている。 		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向のうち最大のものが前面に出る計画となるように努めている。 ・ミーティングやカンファレンスにより、意見、アイデアを集めている。 ・本人や家族と意向や支援内容について話を聴ける場を設けている。 	ご本人の最も望むテーマを軸に家族の要望、職員の意見等を踏まえ介護計画を作成している。計画と入居者の現況との整合チェックも職員全員で検証し、見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな発見や、トピックスも記録に残すようにしている。 ・申し送りにて情報を共有し、活かしている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅や家族宅への外泊希望等があれば薬や必要物品の準備等の支援をしている。 ・入院が必要な場合は各支援を行っている。 ・家族の希望があれば、宿泊もしてもらえるようにしている。 		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・書店、スーパー、移動パン屋、訪問美容等に、必要時もしくは希望時に行き、選択や支払いをしてもらっている。 ・ボランティア来所による演芸鑑賞等を行っている。 		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、協力医の往診がある。 ・協力医とはいつでも連絡がとれる。 ・家族が希望している病院にも受診している。 ・転院の希望があれば応じている。 	協力医(内科)による毎週の往診に24hオンコールによる支援体制を敷いている。歯科、眼科、整形外科等への通院同行は事業所で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日の日勤帯、看護師を配置している。 ・看護師配置になり、体調管理や緊急時にはいつでも連絡が取れ指示が受けられる。 ・協力医に直接電話し、報告相談して指示受け等している。 		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時は、協力医の紹介状や介護情報の提供を行っている。また、早期退院に向けての話し合いや情報交換を行っている。 ・職員が見舞いに行った際に本人の安心と関係者の連携を図り、早期あるいは適時に退院できるようにしている。 	入院中は、入居者の不安感を軽減するため頻度をあげて面会している。また早期退院にむけて病院とは連携を密にし、退院時には予後に不具合が生じないようにカンファレンスに参加している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期に向けて家族、協力医と話し合いの場を設けている。 ・遠隔地の家族には電話・手紙で状態の把握と情報の共有を行っている。 ・支援体制の説明と方針の共有を行っている。 ・本人、家族の意向を踏まえ、現場の能力を考慮した話し合いを行っている。 	重度化・終末期への対応は、ご本人にとって望ましいケアとなるよう関係者(家族、医療関係者)と相談しながらすすめている。この1年では、2名の看取りをおこなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練やミーティングにより、急変・事故発生時の対応に備えている。 ・応急対応のマニュアルを掲示している。 ・非常持ち出し袋の中身、必要物品について、ミーティングで考えている。 		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・昼想定と夜想定避難訓練を行っている。 ・運営推進会議において訓練や相互協力について話し合い、意見をj得ている。 ・地域の防災訓練に参加できる見込みである。 	年2回(日中帯・夜間帯想定)の訓練(避難・消防)を実施している。ホームの飼犬も一緒に参加している。訓練状況は運営推進会議で報告し、地域の方々からも意見をいただいている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 言葉かけ、態度、表情、行動において尊厳を守ることに常時注意している。 ミーティングの場でも最重要として確認しあっている。 	自分たちの価値観を押し付けることなく、ご本人の自尊心・羞恥心に配慮しながら「強み」「生け花」「裁縫」「調理」「体操時の模範演技」「花の種選び」等が維持・継続できるよう取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 会話の中で希望される事、好まれる事を伺ったり、様子を伺ったりしている。 言葉による意思表示が明確でない方には、表情等に注意している。拒否には、すぐに応じる。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> その方の普段のペースやその時の状態を尊重して声掛けをしている。 可能な限り、行きたい時に行きたい所に行けて、見守れるようにしている。 本人の動きを軸にケアの変更がよくある。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 訪問美容ではパーマ、毛染め、カット等選んでもらっている。 可能な限り、着る服選びしてもらっている。 お風呂上りに乳液やクリームを使って頂いて、肌荒れしないようにしている。 		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 趣味や役割のように、調理に関わられたり、片づけをされるかたもあり、幅広く入居者と職員と一緒にやっている。 	入居者と職員が互いに支え合い楽しい『食』となるよう取組んでいる(「食」のスピーチや調理・片付け等)。イベント食(バイキング、BBQ、焼肉パーティー等)や外食も実施しており入居者にも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 料理本等を活用し、栄養バランスに留意している。 糖尿病の方への食事については医師の指示を受け、一日の摂取カロリーを適切に提供している。また、個人の水分摂取も細やかに、色々な形で提供している。 体格や運動量や状態に応じて、支障の無い範囲で量を調整している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 食後に口腔ケアの声掛けを行っている。 舌の状態を観察し、汚れていたら磨いて頂く。 毎日口腔体操を行っている。 		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、トイレでの排泄を保てる様になっている。 夜間はポータブルトイレを置き、失敗を減らすようにしている。 	<p>入居者個々人の排泄パターンやそのサインを把握しており、適時な声掛け等によるトイレでの排泄が可能となるよう支援している。夜間帯の安眠と排泄の関係性については事業所の課題として検討している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 朝食に乳製品を提供し、食物繊維の多く含まれる食材を使った献立を取り入れ、歩行や体操など体を動かすようにしている。 		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 曜日を決めず、どの曜日でも入浴可能としている。お風呂が楽しみに思ってもらえるように会話や環境づくりをしている。 19時まで通常入浴をすることもある。 	<p>入浴日を限定せず、週2～3回は、入浴が行なえるよう取り組んでいる(19時まで入浴実施)。併設のデイサービスの浴場を利用したり季節湯(ゆず、みかん等)を楽しんでもらったりしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 日中の過ごし方を一人ひとりの状況や思いで過ごしていただけるように、掘りごたつや落ち着ける場所にいつでも休めるように椅子やソファを置いている。 掛物等いつでも使えるようにしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 誤薬がないように、2重チェックを行い、薬剤情報での副作用、用量、用法の確認をしている。服薬支援と状態に変化はないか確認に努めている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの趣味や楽しみごと(生け花、演芸鑑賞、書道など)ができ日常生活の中で、掃除、調理、洗濯など楽しみながら役割を持てるように支援している。 		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 希望に応じて、庭等の戸外や近くの店と一緒にやっている。 家族との昼食外出の際のフォローを行っている。 月4名ずつ(2ユニットで)地域のふれあい喫茶に行っている。 	<p>日常での散歩や買い物、ふれあい喫茶に加え、季節ごとの外出(花見、鯉のぼり見学、観劇等)や菜園での収穫祭、地域行事への参加等、外気に触れることの大切さに留意し取り組んでいる。</p>	<p>個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。今後も、利用者の思いに沿った支援の継続を願います。</p>

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を所持されている方は、限定されているが、買い物外出や移動パン屋での支払いは、預かり金より支払って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠隔地にいる家族に、電話をされ近況報告をされている。 ・手紙が届いた際には、読んで頂き、希望時には読み上げを行う。 ・携帯電話を持っておられる方の、充電のアドバイスをやっている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を取り入れた飾りをし、玄関には花を飾り落ち着いた雰囲気が保たれ居心地よく過ごせるようにしている。玄関やフロア内の花は利用者が生け花教室で生けた花を飾っている。 ・各所にソファや椅子を置きくつろげるようにしている。	玄関口の植物、玄関ホールの飾り付け、穏やかな空気の流れるリビング等、ほっとする事業所(共用空間)の風土が醸成されている。畳の小上がりは程よい休憩スペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・玄関やリビングにソファを置き、エントランスには風を感じながら、語らえるようにベンチを置き、いつでも誰とでも気軽に過ごせるように工夫している。 ・1人や少人数で過ごせるスペースがある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時の説明で使い慣れたものを持参頂くようお願いをしている。居室が一人ひとりの住みなれた我が家になり、居心地良く暮らせるようにしている。	使い慣れた馴染みのもの(家具、仏壇、家族写真等)を持ち込み居心地の良い居室となるよう支援している。洗面台が設置され衛生的であり、またADLの変化への対応にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・とこところにいつでも休めたり、靴の脱ぎ履きができる様に椅子やベンチを置き、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。 ・屋内でも個人用のシルバーカーを使ってもらっている。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容